

松 山 大 学 論 集  
第 23 卷 第 3 号 抜 刷  
2 0 1 1 年 8 月 発 行

『 三 』 の 研 究

田 崎 三 郎

# 『三』の研究

田 崎 三 郎\*

## 1. ま え が き

素数の『一』は物事の始まり、『二』は明暗・善悪・剛柔などの対立関係、そして『三』は洋の東西を問わず『聖なる数』とか『陽の数』と見なされてきた歴史があります。

私たちの宇宙世界の時間や空間がエネルギーとして現れたことを表す最も大事な基本概念に「数霊」があるとする数霊学によると、この『聖なる数』の意味は時間や空間の最小単位、あるいは広がり範囲といった一つの節目を表わしているのが数霊『三』ということです<sup>1)</sup>

古代中国では、人の生命をはぐくみ、その活動の元となる重要な概念として、「天に日月星の三宝あり」、「地に火水風の三宝あり」、「人に精気神の三宝あり」が示されていました。ここに、日月星は三光ともいい「宇宙の気であり、時空を支配するもの」、火水風は「大地の気であり、生命をはぐくむもの」、精気神は「人の気であり、命の三つの形」です。なお、「精」は精力（肉体の力）、「気」は元気、「神」は意識を指しています<sup>2)</sup>

また、古代エジプトの時代から、「見ざる、聞かざる、言わざる」の三猿思想は叡智の三つの秘密として知られており、英語にも Three wise monkeys なる言葉があります<sup>3)</sup>

古代ギリシャの賢人であるピタゴラスも「トリアド」（「三」の意）は最初の

---

\* 愛媛大学名誉教授

均衡であるとし、「幾何学、音楽、天文学」の三つをあらゆる学問の基礎におき、神の創造性は常に三角形で象徴されると述べています<sup>4)</sup>

現代でも、私たちには空間を「上中下」や「陸海空」、時間を「過去・現在・未来」や「朝昼晩」のように、大まかに三分割して考える習慣があり、この宇宙空間の距離や方向、あるいは速度や時間の最小単位やリズムを調べてゆくと、『三』が基本になっている事柄の多いことが分ります<sup>5)</sup>

さらに、『三』の特徴として、縁起がよく、落ち着きがあり、まとまりもよく、バランスのとれた、大きな発展（ダイナミクス）などがあることもあちこちの文献で述べられています。

物事の現象や対象を三つの要因や特徴で表現することもしばしば見ることができます<sup>6)</sup>。例えば、効果的に話すときの話題は一つ二つではもの足らず、四つでは多すぎる。これを三つとすれば容易に覚えられ、頭に入りやすく、また、もっともらしく聞こえて大変重宝だといわれています。このような理由からでしょう。良く知られているキーワードやキャッチフレーズには、三つ並べた場合が極めて多いことに気づきます。

「三分間の効用」という話もあります。スピーチの世界では三分間は長すぎず短すぎず、心理的にも丁度いい時間とされていますし、スポーツの世界でもボクシングのラウンドは三分間、砂時計設定も三分間が多い、そしてカップめんの待ち時間は三分間、等々です<sup>5)-1)</sup>

これらの考察を基に、まず2章では、『三』が東西を問わず『聖なる数』と見なされていることを明らかにするため「宗教と気の世界」について述べます。つづく3章では、数に最も関係の深い「自然科学と技術の世界」でどのように『三』が扱われてきているかを見てみます。

ところで、『三』にまつわる事柄を調べているうちに、「ビジネスの世界」では『三』を基調とした話題が実に多いことに気づきました。これは古代インドから“商業算術（あるいは財務の数学）”の用語で「三量法」（あるいは「三数法」とか「三の法則」とか呼ばれ、現在では「比の三用法」とも呼ばれていま

す) が良く使われ、いまもってビジネスの基本とされているためかもしれません<sup>6)</sup>

さらには、ボストンコンサルティンググループ創設者である Henderson が 1976 年に『三と四の法則』を発表したり<sup>7)</sup>、その流れで 2002 年に Sheth & Sisodia が『三の法則』を出版していることなどから<sup>8)</sup>、4 章では「ビジネスの世界」に触れてみます。

その後は、順次「文化・教育・人生の世界」, 「社会・地域・生活の世界」, 「健康・医療・スポーツ・エンターテインメントの世界」へと駒を進めます。最後に、「同じアルファベットの三組についても言及しておきます。

## 2. 宗教と気の世界

### 2.1 中国（三大宗教）

1) 仏教における三宝とは、「仏・法・僧」なる三つの宝を指し、この三宝に帰依することで始めて真の仏教徒になれるとされています。ここに、「仏」とは悟れる人を尊ぶ心、「法」とは理の道に従う心、「僧」とは我欲を捨て集団に和合していく協調の心を示しています<sup>9)</sup>

また、大乘仏教では悟りの体現者である「仏」(釈迦, 如来など)、仏の説いた教えを集大成した「法」、法を学ぶ仏弟子の集団である「僧」、といった解釈がなされていますが、他に「仏」を仏像、「法」を経巻、「僧」を出家者、と捉える理解もあるようです。

仏教では、生命現象はすべて「身(身体)、口(言葉)、意(心)」という三つの働きで成り立つとしており、顕教では人間のこれら三つの働きは、煩惱に覆われ汚れているという見方から「三業(ごう)」と呼んでいます。他方、密教では大日如来を宇宙の根源的な生命力とみなし、森羅万象は大日如来の現れであり、人間のこれら三つの働きも大日如来の現れであるから、本質的には人間も大日如来と同じであるとしています。ただ、大日如来の働きは通常の人間の思考では計り知れず、密なるものという意味で「三密」と呼んでいます<sup>10)</sup>

また、禪に入門を願う者には「求道心の三つの条件」である大疑団、大憤志、大信根を備えているかが問われます。瞑想である止観では、こだわりを捨てるやり方に空観、仮観、中観があるとしていますが、座禅は止観を座って行うことです。さらに、唐時代の浄土教大成者である善導大師は「念仏者は至誠心、深心、回向発願心の三心を備うべし」と説いています<sup>11)</sup>。なお、日本とは異なり中国の僧侶は戒律が厳しく、生涯にわたって「独身、菜食、僧衣の着用」を守らねばなりません<sup>52-1)</sup>。

仏教でいう「三途の川」とは、火に焼かれる地獄の「火途」、互いに食い合う畜生の「血途」、餓鬼が殺し合う「刀途」を指しています<sup>12)</sup>。また、葬儀の席で読まれる懺悔(さんげ)文には善根を毒する貪欲(むさぼりの心)・瞋恚(しんい; 怒りの心)・痴(愚痴る心)の三種の煩惱が入れられることになっています。

2) 儒教では、『論語』の「学而」に「吾日に吾が身を三省す。人の為に謀りて忠ならざるか、朋友と交わりて信ならざるか、習わざるを伝えしか」(毎日三度も自分の言行を反省すること)とあります<sup>13)</sup>(これが「三省堂」の社名由来)。

他方、『論語』の「季氏」には「益者三友、損者三友」とあり、直(正直な人)、諒(誠実な人)、多聞(見聞豊かな人)を友とするのは益であり、便辟(媚びへつらう人)、善柔(当たりさわりは柔らかいが誠実に欠ける人)、便佞(心無く口先だけ達者な人)を友とするのは損だと述べています。

また、『中庸』には「知(者)仁(者)勇(者)」それぞれの人を三徳と記し、『孟子』の「尽心上」にも、君子の「三楽」として、一家の者が無事であること、天にも人にも恥じるところのないこと、天下の英才を教育すること、を挙げています<sup>14)</sup>。

3) 道教では、老子が「慈」(万物を抱擁する心の広さ)、「儉」(自分の状況に応じて慎ましやかにしておられるだけの心のゆとり)、「敢えて天下の先とならず」(名声など求めない心の落ち着き)の三宝を説いています。

また、道教気功のなかで「気を練り、気を養い、真気を生み出す」身体を作

る修練法として知られている練功には、調心（大脳や心のやすらぎと安定）、調息（腹式による呼吸の調整）、調身（全身をリラックスさせ、調心・調息を上手くやるため、正しく美しい姿勢を保つ）があります<sup>15)</sup>

算命学は、道教から派生してできた運命学ですが、この算命という言葉は「運命を算出する」を意味しており、占術全般（特に占星術）を指す言葉とされています<sup>16)</sup> この算命学では、年と月と日の干支を求めて人の運命を占いますが、その思想には万物を象徴するものに「天地人」があり、天は「霊的世界」、地は「現実的世界」、人は「精神的世界」であるとしています<sup>17)</sup>

4) 気のトレーニング法にも『三』が多く出てきます。まず、孔子の仁として、「詩に起こり」「礼に立ち」「楽に成る」は気のトレーニングの三つの姿とされています。腹式呼吸にも臥式（横になって行う）、坐式（座って行う）、立式（立って行う）があります。太極拳の内三合には「心至れば意至り、意至れば氣至り、氣至れば力至る」とあります<sup>18)</sup>

## 2.2 日本（神道と密教）

日本神道の伝承の上に立つ修験道の秘法は「気合術、催眠術、医術」の三つですし、天皇の位を象徴する「八咫の鏡、八尺瓊勾玉、草薙の剣」は言わずと知れた三種の神器です。

身密（身体；手に印を結び、一定のポーズをとること）、口密（言葉；真言を唱えること）、心密（心；イメージによる観想）の「三密」を仏と一体化することが空海を始祖とする真言密教の行（修行）とされています<sup>19)</sup>

## 2.3 キリスト教

キリスト教では「三位一体」（父と子と聖霊）やキリスト誕生にちなむ三博士の話があり、修道士は清貧（何もかも私有しない）、貞潔（生涯独身）、従順（上長に従う）の三つの誓願を立てて修道院に入るとされています。

## 2.4 インド

ヒンドゥー教では、創造神（ブラーマ）、維持神（ヴィシュス）、破壊神（シヴァ）を三神一体といい、特にシヴァはヨーガ道の主神とされています<sup>20)</sup>

インド大陸の伝統的医学であり、パンチャカルマ（身体浄化法）、ヨーガ、瞑想などの根幹をなしている理論であるアーユルヴェーダ（「いのちの知恵」）の最も特徴的なのは「トリ・ドーシャ理論」（三大基本エネルギー要素の意）で、「トリ」は「三」を、「ドーシャ」は「濁り」を意味しています。この理論では、ヴァータ（運動のエネルギー）、ピッタ（変換のエネルギー）、カパ（結合のエネルギー）と呼ばれる三つの濁りが及ぼす影響や取り扱いについて説明しています<sup>21)</sup>

## 3. 自然科学と技術の世界<sup>6), 22)</sup>

ピタゴラスが「宇宙の根源は数であり、万物は数である」と述べた話は有名ですし、彼の弟子たちも「数が宇宙を支配する」と言ったと伝えられています。そして、数学では「神が創ったものを人が法則として見つけ出すことから、その業績は“発明”とは呼ばず、“発見”というのだそうです。

ピタゴラスを含めた古代の人たちは数や図形には不思議な魔力が潜んでおり、しかも『三』には完全、完成の意味や魔力の意味もあると考えていたようです<sup>51-2)</sup> 従って、ヨーロッパの物語のなかには不吉な数として『三』を登場させていることもあるとのことです<sup>23)</sup>

### 3.1 数学

数学史上の三大発見は「アラビア数字記法、小数、対数」といわれていますし、それ以外にも『三』にまつわる有名な法則が数学には数多くあります。

まず、ピタゴラスは“数と図形”の関係を示した「三平方の定理」を発見しています。これは、直角三角形の斜辺の二乗の長さは他の長さの二乗の和と同じ長さになるという定理です。

三角比とは正弦 (sin), 余弦 (cos), 正接 (tan) であり, これを「静」とすれば三角関数は「動」です。また, 加法, 減法, 乗法, 除法の四則演算では「交換, 結合, 分配」の三法則が使われます。

推論の形式として, 仮説を個々の事例に当てはめて結果を導く手法が演繹法 (証明法), 積み重ねた結果から仮説を形成するのが帰納法 (発見法), 飛躍度が非常に大きい仮想法 (仮説的推論あるいは発見法ともいう) の三つがあります<sup>51-3)</sup>

「三すくみ」の話もあちこちの国にあります, 「じゃんけん」は典型的なその例です<sup>24)</sup>

### 3.2 三進法

n 進法とは, n を底とし, 底およびその冪を基準にしてある数 m を表す方法ですが, n 進法で m を表すのに k 桁を用いるとすれば, 表現できる総数は  $m = n^k$  となります。このとき m を可視化させるために電球を使うとすれば, そのために必要な電球の数は  $n * k$  個。ここで,  $m = n^k$  を一定としたとき,  $n * k$  を最小とする n の値を求める問題は,  $f(n) = n / \ln(n)$  を最小にする n は何か, ということに帰着します。そして, その解として  $f'(n) = 0$  となるのは  $\ln(n) - 1 = 0$  のとき, 即ち  $n = e$  となったときであり, これが最も効率の良い n 進法になります。ここに,  $\ln = \log_e$  で, この  $e = 2.71828 \dots$  は超越数の一つのネイピア数であり, 自然対数の底です。

この話から, 最も少ない電球数で効率よく表現できるのは e 進法であることが分かりますが, 勿論, デジタル技術では e 進法の回路は本質的に作れませんから, e に最も近い三進法が理論的には一番合理的な数となります。

ただ現実には, 簡単さなどの理由で三進法の次に効率のよい二進法を現在使っていますが, 昨今, 高速情報処理, 高密度記録などの技術が急速に進展してきているために, 多値 (3 値以上) の信号処理技術が次々と見直される傾向にあります。

なお、三角関数と自然対数の底  $e$  との関係は次の Euler の恒等式で示されています。

$$e^{i\theta} = \cos \theta + i \sin \theta \quad (\text{ここに } i \text{ は虚数単位})$$

### 3.3 物理学

物理学の基本的な量は「長さ、時間、質量」ですが、色彩に関してもすべての色相は「赤、緑、青」の三原色から生み出されます。また、すべての多角形は三角形に分解でき、三角形を含む構造は安定するといわれています。さらに、「平面は三点が決定する」ことから、三角測量が用いられていますし、椅子も机も三脚が一番安定しています。

Kepler による惑星運動の法則「楕円軌道、面積速度一定、調和」や Newton の運動に関する方程式「慣性、加速度、作用・反作用」のいずれも三つの法則から構成されています。

三体問題とは、三つの質点の間に万有引力の法則に従う力が働く場合の運動を Newton 力学で決定する問題で、地球、衛星、月等三体以上の天体を扱った場合の軌道問題などに使われていますが未だに解決されていません。

### 3.4 科学・技術とイノベーション（技術革新）

後藤は産業技術の革新について、

- ① イノベーションは本質的に不確実性への挑戦である、
- ② 技術選択は極めて社会的な現象である、
- ③ 技術と科学との関係は複雑である（科学はイノベーションのための種を与えてくれるだけでなく、技術開発の問題解決の手がかりをも与えてくれる。また、科学の進歩も、具体的な問題解決を目指した技術開発の中から生まれることが多い）

という三つの視点を示しています<sup>51-4)</sup>

## 4. ビジネスの世界

### 4.1 「三の法則」

Henderson の「三と四の法則」とは、「安定した競争市場には三社を超える主要競合企業が存在することはなく、そのうちの最大の企業は最小の企業の四倍を超えるシェアを持つことはない」というものです<sup>7)</sup>。他方、Sheth & Sisodia の「三の法則」では、「競争市場も淘汰を繰り返して進化し、一番強くて、実力のある三社がトップグループを形成する」というものです<sup>8)</sup>。ただ、情報社会が進展するにつれて、too big to fail がもう過去の遺物になりつつあることは、Welch が「業界1位か2位でないと、事業継続の意味はない」との方針を貫いた話からも明らかです<sup>25)</sup>。筆者もかつてオンリーワン企業の出現について述べています<sup>26)</sup>。

### 4.2 イノベーション

昨今、ビジネス環境は①グローバル化、②規制緩和、③情報技術の進展、により世界規模で拡大を遂げて来ています<sup>53-1)</sup>。ここでいうグローバル化とは、①資本主義が主として担ってきた交換機能、②宗教が慈善とともに主として担ってきた互恵機能、③社会主義が主として担ってきた再分配機能、の個々の市場機能がこれらを統合する新しいシステムへと移ってゆくことを指しています<sup>52-2)</sup>。

小宮山は、21世紀のパラダイムとして①爆発的に増え続ける知識を共有できず誰も全体像が見えなくなる「爆発する知識」、②資源の欠乏に直面する「有限の地球」、③高齢者が増える「高齢化する社会」、を挙げています<sup>52-3)</sup>。

このため、このようなパラダイムの転換に適合したビジネスモデル構築のためには新たなイノベーションが求められますが、特に、企業経営のイノベーションについては、

- ① コーポレートファイナンスの戦略的活用（買収・売却による市場の組み替え、ベンチャーキャピタルを利用した研究・開発機能の外部化、投資

ファンドを活用した周辺事業の切り出しなど、資本市場を通しての一連の企業再構築手法。これらを競争力強化の恒常的な手法として企業経営に組み込まれるべきもの、

- ② ITによるプロセス革新（単なる社内情報システムの強化ではなく、インターネットを通して企業間取引を圧倒的に効率化させるとともに、企業と顧客との距離を縮め、いかに顧客密着型の事業モデルを構築するか、という事業プロセスの抜本的革新）、
- ③ 無形資産を創造しグローバルに再生産すること（単純なモノ作りでは最早競争力を維持できず、ブランド、ビジネスモデル、固有ノウハウ、独自技術、有能な人材などの無形資産が競争力の源泉となりつつある。これらを効果的に創造し、世界市場に提供して企業価値を高めていくこと）

が必要との記述があります<sup>51-53</sup>。実は、この見解はFriedmanが『フラット化する世界』で述べていることと一致する話です<sup>27)</sup>

Friedmanは世界最大の売り上げを誇る流通企業のWal-Martを例にとって、フラット化する世界について次のような説明をしています。すなわち、企業における競争力の低下要因は、

- ① 同一業種に参入する企業が多すぎる、
  - ② 個々人が精神的にひ弱になっている、
  - ③ 過剰なまでのリスク管理体制が徹底されて高コスト構造に陥っている、
- ことにある。このため、自分達の事業の成功の鍵を握るのは規模と効率だということをWal-Martは十分に理解したうえ、大幅な割引を可能にするメーカーから直買する基本的手段をまず確立した後に、次の三つのことに集中した。

- ① まず、メーカーと協力して、コストを出来るだけ削減させる。
- ② 次に、メーカーが世界のどこにあらうと、そこからWal-Martの物流センターへのSC (Supply Chain) を改善し、可能な限り摩擦を削減する。
- ③ 三つ目はWal-Martの情報システムの改善で、顧客が何時何を買っているかを正確に知り、その情報を全メーカーに報せ、適切な時に適切な商品

が棚にあるようにする。

このようなイノベーション手法は流通のみならず、多くの他分野にも活用できる話でしょう。

#### 4.3 我が国の問題点指摘

日本の経済が1990年代に停滞したのは、①日本企業が社員のGDPを奪うような雰囲気ばかりになって同質化が進み、②個人は力を発揮できず、そのため新しいものを生み出せず、③組織自体を維持することが目的になってしまった、からという指摘があります<sup>51-6)</sup>

このような状況にも拘らず、企業の役員達は「秘書、専用車、個室」という三種の神器を後生大事に保持し、私利の心、つまり「保守（保身）、思い上がり、自己満足」から離れることは出来なかった。その結果、21世紀に入る頃には「債務（借金）、設備、雇用」の過剰三重苦に悩まされるようになってしまった、とも言われています。

現在、我が国では①収入減や雇用・年金不安による支出の縮小、②働く女性の増加や娯楽の多様化に伴う消費者が買い物に専念できる時間の縮小、③高齢者や若者の車などによる移動の縮小が起っています。その結果、消費者は①買わない、②もたない、③捨てないの「三ない消費」へと向かっているようです<sup>51-7)</sup>

大田は日本が直面している三つの課題として、①サービス産業の生産性が低い、②金融資本市場や航空、港湾など経済インフラの国際競争力が低い、③人材を活かしきれていない、ことを指摘しています<sup>51-8)</sup>

ただ、実は我が国には以前より、グローバル化から遥かに遠い景気論議があり、これがまた景気回復の足かせとなっているとの声があります<sup>51-9)</sup> すなわち、

- ① 政府の経済見通しを重視して、判断基準にしているのは日本だけ、
- ② 何かに付けて政府に「宣言」することを求め、熱心にそれが何時出るかを議論するのは日本だけ、

③ 景気をよくすることは政府の責任だと考え、特に財政面から政府の対応を求める声が強く、景気と公共投資とを結びつける議論が多く出るのは日本だけ、との指摘です。

しかも、この政府機関の実行部隊である官僚たちの問題点について、末弘は既に昭和の初期段階において、①専門家になるな、②法規を盾に形式的理屈という技術を持って、③縄張り根性の涵養に努めよ、これが日本を駄目にする役人学の三原則である、と指摘しています<sup>28)</sup>

他方、20世紀末にIMFの管理下に入るという大試練を受けた韓国企業は、それ以後、①不況下での積極投資を含めた大胆かつ迅速な経営判断、②高付加価値の商品を集中的に投入する販売戦略、③先進国のみならず、アジアやアフリカも含めた新興・途上国市場をくまなく取り組む地道な海外戦略、なる自助努力を行ってきたことでもって現在の繁栄を得ているという見方があります<sup>51-10)</sup>

#### 4.4 問題点克服への努力

4.3の指摘に対して、

- ① これまでも先行きは不透明であり、我々は将来不安を抱き続けてきた。「将来不安が強いことが現在の日本経済の大きな特徴」という議論は正しくない。
- ② 多くの人が将来に不安をもつのは「正しい」ことであり、「必要なこと」。根拠のない将来不安は無い方が良いが、正しい将来不安は自己改革のテコとなる。
- ③ 「不安を隠すこと」を政策目標にすることは弊害を生む。むしろ不安が強まるのはある程度覚悟して、正しい実態を国民に知ってもらう方が良い。との意見<sup>51-11)</sup>がありますが、一面、上記の指摘が原因の官製不況となっていることも否みません。従って、ここから抜け出すためには、①「お上に頼る」意

識を捨てよ、②政策をムードで決めるな、③政府は消費者の自立支援を軸に据えよ、との提案<sup>53-2)</sup>もあります。

現在、日本は明らかに国家そのものが壊れかけており、第二次大戦後最大の危機に直面しています。その最たる象徴である福島原発事故については、新たな問題が起こるたびに、これに対して“直ちに影響はない”，など全く説得力のない説明が繰り返されています。このことから、私たちは最早「お上」に、この危機脱出方策を任せることは止めにして、一人ひとりがこの問題解決に努力しなければならないでしょう。

救いは、4.3の指摘に対して、官に依存せず、これら問題点を克服しようとしている企業が我が国には数多くあることです。

例えば、ファーストリテイリングは①ついで買いを誘う、②自社での製造・販売、③大量売り切り戦略、の流通モデルで臨んでいます。そして、①服を変え、②常識を変え、③世界を変えていく、ことを社のステートメントとしています<sup>51-12)</sup>

IBMは①お客様の成功に全力を尽くす、②私たち、そして世界にとって価値あるイノベーションの確立、③あらゆる関係における信頼と一人ひとりの責任の明確化、をグループ全体で共有すべき価値観として設定しています<sup>9)</sup>

安川電機は需要創出へ変革を行うために、①工場を“ショールーム化する”，②製品コンセプトを大転換する（単機能から多機能化へ、専用機から汎用機へ）、③能動的な営業体制へ（提案営業を志向）、を2009年に掲げています。

オオゼキの佐藤達夫会長は都市型食品スーパーの主義・理念として、①お客様第一、②個店、③地域密着、を2003年に掲げています。

少子高齢化社会への対応策についてもいくつかの提案があります。まず Moore は、①高齢者についての考え方を変えなければならない。②町、家、交通機関、サービスなど世界全体が高齢者のためにデザインされねばならない。③高齢者が我々に語りかける声に耳を傾け、応えなければならない、と社会と老人が共生できるためのカギについて語っています<sup>30)</sup>

また、子供市場に関しては、①企業のCSR予算(「社会貢献」の財布を刺激)、②10ポケット(“バカおば”をご存知ですか?)、③父親の消費(「趣味は育児」の“パパ市場”)との指摘もあります<sup>53-3)</sup>

#### 4.5 経営者の心得

パラダイムの転換に対応するために経営者が心掛けねばならない三点についても、多くの指摘があります。そのいくつかを述べてみましょう。

- ・経営者のモットー：「あきらめない」「骨身を惜しまない」「物事を肯定的に考えること」。
- ・事に臨んで：能く見る(観察力・調査力)、見て能く行う(実行力)、当に行うべくんば果決す(最終的に選択する決断力)<sup>53-4)</sup>
- ・平時にあつて危機感を醸成する方法：正しい状況認識、的確な対策・戦略をたてる、それを行動に起こす。

等々ですが、“実践を伴わないスローガン・理念を掲げるな”との意見や、昔から知られ、いまなお輝くサービスの根本は近江商人の精神とされる、①売り手よし、②買い手よし、③世間よし(社会全体が豊かにならなければならない)の「三方よし」ともいえます<sup>3)</sup>

また、かつて三菱財閥を支えた岩崎小彌太が商社経営の基軸として、①所期奉公(公益重視)、②処事光明(情報公開、透明性の堅持)、③立業貿易(グローバル事業の推進)、と述べていることも挙げておくべきでしょう<sup>51-13)</sup>

シグマクシスの倉重英樹は多様性マネジメント推進のポイントとして、①トップの強烈なリーダーシップ、②正しいアプローチ(多様性レベルの向上)、③変革管理(効率性から創造性へ)を2009年に挙げていますが、それにしても創業者たちには、①楽観主義、②チャレンジ精神、③強烈な個性から齎される自由闊達な企業文化、という共通する特徴があるようです。

なお、楽道家になるプロセスとして、①イヤなことや仕事での失敗やミスなどあれば、すべてを認め、愚痴を言わず、やげにならない、②失敗を認めたら

直ちにそれを忘れ、他人を恨んだりしない、③見方を変え、叱られたら、気づかなかったことを教えてくれたと考える、などの意見もありました。

## 5. 文化・教育・人生の世界

### 5.1 日本文化

日本は奇数文化であり、その内でも『三』はその中心をなしている、とされています。また、『三』には日本人を落ち着かせる何かがあるとの意見もあります。

『三』の文字を使ったことわざや比喩、座右の銘は実に多く見ることが出来ますし、『一』『二』『三』と繋がるものも多くあります（一富士二鷹三なすび、一押し二金三男などがその例です）。遊びでも『三』は多く使われており、例えば麻雀では面子、刻子、順子はいずれも三枚牌構成です。

### 5.2 『三』に係る熟語

1) 年月：三日三月三年、猫は三年飼っても三日で恩を忘れる、犬は三日飼えば三年恩を忘れない、三日見ぬ間の桜、三日坊主、記憶と三日（三日坊主（脳）、里腹三日（臓器）、三日書を読まざるは語言味なし（学問）、三日見ざれば刮目して待つべし（全身）、結婚（三週間互いに研究しあい、三ヶ月間愛し合い、三年間喧嘩をし、三十年間我慢しあう。そして子供達が同じことをまた始める。）、石の上にも三年、三年鳴かず飛ばず、三年寝太郎、三年有成（三年有れば必ず成功する）、元旦を「三元」と呼ぶ（年の元、月の元、日の元；ここに、『元』は初めの意）。また、「三・三・三の法則」は、出会った最初の三秒以内で服装、顔つき、態度、目つきなどから相手の第1印象が決まり、三十秒以内で話し方や声の明暗、スピード、落ち着きなどで第2印象が決まる。そして、三分前後で第3印象として、互いの気が合うか否か相性が分かるというもの。その他、三年には「多くの年月」という意味があり、これを用いた譬えなども多くあります<sup>32)</sup>

2) **回数**：「仏の顔も三度」では二度でも四度でもなく三度です。三度目の正直，千に三つの運，万歳三唱，三度笠，三々九度の杯。そして，目覚まし時計は三回鳴り，不思議なことに自然界でもカラスが多くの場合，三度続けて鳴きます。

3) **人**：三人寄れば文殊の知恵，三人行えば必ず我が師あり，売り家と唐様で書く三代目，早起きは三文の徳，盗人にも三分の理，小糠三合持ったら婚に行くな，孟母三遷の教え，女三界に家なし，三つ子の魂百まで，女三人寄れば姦しい，三尺下がって師の影を踏まず，三顧の礼，お前と同じことを考えている者が世界に三人はいる，だんご三兄弟，三人成虎（物事多くの人が言えば，虚事も実時に成る），毛利元就の「三本の矢」，三角関係。

4) **三者**：法曹（裁判官，検察官，弁護士），地域活性化に活用すべき人（若者，よそ者，ばか者），夜働き（医者，記者，芸者），スケベ（医者，教師，警察官），三上（構想を練るに適した場所；馬上，枕上，厠上），三拍子（本来は小鼓・大鼓・笛の三種の楽器でとる拍子のことだが，今では必要な条件がすべて整っていることを指す）。

5) **「三」はつかないが三つ単語が揃ったもの**：松竹梅（めでたいものの呼称；厳寒三友）<sup>39)</sup> 衣食住（生きてゆくために必要不可欠なもの），運鈍根（事を成し遂げるのに必要な条件），智情意（精神世界の基本要素：漱石の「草枕」），真善美（プラトンに始まる，人間の理想としての普遍的な価値），根性・学習・出会い（独創性・創造性を持つ人になる方法），序破急（日本音楽及び日本芸能における形式上の三区分），心（精神力）・技（技術）・体（身体能力）（「三位一体」と呼ばれ，スポーツの根本要件），気（精神）・剣（技）・体（肉体）（剣道では自然体として，これらのバランスが取れることが必要）。

6) **「三」はつかないが共通の内容が三つ揃ったもの**：正月の食べ物（めでタイ，よろコブ，勝ちグリ），宝塚歌劇団（清く，正しく，美しく），創造の三力（理解力，判断力，決断力），ビジネスマンのコミュニケーション能力（企画力，理解力，伝達力），生活信条（元氣，勇氣，根氣），営業の心（熱意，誠

意, スピード), 職人であることの要素 (勘, コツ, 経験), 電話応対 (Please, Thank you, Pardon me), 男の資質 (ジェントルマン, ロマン, 我慢), 女性の特徴 (おだてりゃのぼせる, 怒れば泣き出す, 殺せば後から化けて出る), 人生のさか (上り坂, 下り坂, まさか), 白河天皇がままにならなかったもの (鴨川の水, 賽の目, 叡山の山法師), 1960年代の営業レディーの GNP (義理, 人情, プレゼント), 秘薬で疑うこと (使った, 効いた, 治った), 健康づくり (栄養, 運動, 休養), 高齢者の機能低下 (視力, 判断力, 脚力), 老いが引き寄せる不安 (孤独, 貧乏, 病気), 温泉に入る目的 (休養, 保養, 療養), 同時に起こった歴史の終焉 (活字文化の歴史, ブルジョア革命の歴史, 革命的社会主義と「世界を意志の力で変えようとした運動」の歴史)<sup>52-4)</sup>

### 5.3 原則・条件

- ・都市生活者が守るべきこと：他人と自分を比較しない。他人に干渉しない。他人に迷惑をかけない。
- ・無常：地上に永遠なるものはない。形あるものは必ず壊れる。人間は生き、そして死ぬ<sup>53-5)</sup>
- ・思考：目先にとらわれず、長い目で見ること。物事を多面的、全面的に観察すること。枝葉末節にこだわらず、根本的に考えること。
- ・夢の実現：目標設定が明確であること。全力を尽くして、かつ楽しくやり抜くこと。運、つまり時代に求められること<sup>51-14)</sup>
- ・“想い”が持っている大きな力を正しく使用するための条件：正義を貫くこと。自分の考えや行いと、人生、そして自然、宇宙との関係を見つめること。成功するイメージを明確に描き続けること<sup>34)</sup>
- ・食通：米国人は胃で食べる。中国人は舌で食べる。日本人は目で食べる。
- ・世界の街角での要注意：スリ・置き引き・恐喝<sup>51-15)</sup>
- ・植物が生き延びるための掟：競争, 我慢, 共生 (人間社会が健全に発展するためのキーワードでもある)<sup>52-5)</sup>

- ・思考の三原則（安岡正篤）：目先にとらわれないで、できるだけ長い目で見る。物事の一面にとらわれないで、多面的・全面的に考察する。枝葉末節にとらわれないで、根本的に見る。

#### 5.4 人生行路・教え

- ・三動：衝動が行動に繋がり、行動が感動を呼ぶ。<sup>51-16)</sup>
- ・三感王：何事にも関心を持つ。感動する心を持ち続ける。すべてのものに感謝する。<sup>53-6)</sup>
- ・三段階：他人に依存する First stage, 他人から依存される Second stage, 他人への依存からも責任からも解放され、個人の自由を謳歌できる Third stage。<sup>51-17)</sup>
- ・人生訓：正しい目標を掲げ、それに向かって「努力」し、思うようにならない時はじっと「忍耐」し、「時」至れば必ず成就する。<sup>51-18)</sup>
- ・人生行路：世界の外に通じる俗世放棄の道（宗教的情熱）。世界そのものの改良と完成をめざす道（この世で理想的な社会を打ちたてようと志す）。より美しい世界へ向かう道（ただ「夢見る」ことにより世界を美しく生きようとする）。<sup>35)</sup>
- ・学を志す者へ：立志，慎独，求己（近藤篤山の三戒）。<sup>52-6)</sup>

#### 5.5 教育理念・方針

- ・早稲田大学：学問の独立，学問の活用，模範国民の造就。<sup>51-19)</sup>
- ・岡山大学：自然と人間の共生を希求する。多様な文化・価値観を尊重する。地域と世界の発展に寄与する。
- ・開成学園：知性，精神，身体の三つがすべて同等の価値をもち，この三つが組み合わさった時に「人格」が形成される。<sup>53-7)</sup>
- ・社員教育：強育（社員に少し重い仕事を任せること）。競育（同じ年代同士で競いながら育つこと）。共育（経営者と社員とが共に学び，共に育つ

- こと)<sup>53-8)</sup>
- ・廣瀬淡窓塾：身分を口にせぬこと。学歴を口にせぬこと。年齢を口にせぬこと。(入門させる時に誓約させる三奪)。
  - ・オランダの教育を支える：個別指導(少人数の子どもに能力やテンポに合わせて学ぶのを支え、励まし、指導する)。自立学習(新しい知識や技能をより確実にするために、多様な教材を元に自分で復習したり、問題を解かせる)。共同学習(他の子ども達との関係の築き方、役割分担のやり方を学ばせる)<sup>36)</sup>
  - ・いい上司になる方法：非難したり、糾弾したり、不満を表に出したりするな。誠実で真摯な感謝を示せ。相手に、自分は重要人物なのだと感じさせるようにせよ、但し、誠実な態度でそう努めなければならない<sup>37)</sup>
  - ・意思決定力育成：全社員に「失敗する権利」を与える。なるべく若いうちに意思決定の機会を与える。1回目の失敗は許し、挑戦したこと自体を評価する<sup>53-9)</sup>
  - ・個人を成長させる企業の職場支援：業務支援(業務に必要な知識やスキルを提供してもらったり、業務をスムーズに進められるように取り計らってもらったりすること)。内省支援(自分自身を振り返るきっかけを与えてもらうこと)。精神支援(息抜きや安らぎを与えてもらうこと)<sup>53-10)</sup>

## 5.6 リーダーの心得

- ・上杉鷹山の人間管理：して見せて、言って聞かせて、させてみる<sup>38)</sup>
- ・理想的なリーダー：良い面で、モデルになれる生き方が出来る。率先垂範型である。即時処理型である<sup>39)</sup>
- ・リーダーの三徳：主(主人としての面倒見)、師(師匠の指導力)、親(親としての厳しさと温かさ)。
- ・リンカーン：全ての仕事を、①どうでもいい問題、②注意が必要な問題、③絶対に大切な問題、の三段階に分けた。そして、①には口を挟まず、

すっかり人に任せる。②には他人の意見も聞くことにするが、どちらでもよいと思えば必ず自分が譲る。③には徹底的に論争し、絶対に譲らないことを原則にした。

- ・世界のトップの人たちの共通項：気分の転換が速い。昨日のことを今日に持ち越さない。いやなことはすぐ忘れて眠れる。
- ・小淵恵三：宿命に生まれ、運命に挑み、使命に燃える。

## 5.7 文化比較

- ・フランスの国旗：Tricolore（三色の意）と呼ばれる。俗説では青は自由、白は平等、赤は博愛。
- ・魅力ある男によくみられる特徴：容貌魁偉、くつろいだ性格、動物的引力の発散。
- ・政治家に求められる資質：情熱，責任感，判断力（ドイツの社会学者・経済学者である Max Weber の言）。
- ・かもになる日本人：あいまいさ（毅然たる態度の欠如），島国根性（語学力の貧困さで，日本語を使ってくると気を許す），お人よし（ちょっとした親切に法外のチップを払う）<sup>40)</sup>

## 5.8 文化・文明の歴史

- ・戦後日本の三大愚行：旧仮名を新仮名にしたこと，尺貫法をメートル法にしたこと，住所表示法で地名を変えたこと<sup>51-20)</sup>
- ・アフリカ諸国の三重苦：旱魃，マラリア，エイズ<sup>53-11)</sup>
- ・自衛隊が女性導入を制限する職種を設けた三つの理由：母性の保護，プライバシーの保護，経済的効率性（男女雇用機会均等法が1983年に制定された後の1993年防衛庁方針）。

## 5.9 法律・政策・機能・原則

- ・電源三法：電源開発促進税法，特別会計に関する法律（旧電源開発促進対策特別会計法），発電用施設周辺地域整備法。
- ・教育三法：学校教育法，地方教育行政法，教員免許法（2006年再生の教育基本法）。
- ・非核三原則：核兵器をもたず，つくらず，もちこませず（佐藤栄作が打ち出した日本の国是）。
- ・省庁の三機能：①立法行政の企画審議機能（A機能），②調査統計や監査評価機能（B機能），③決定事項の執行機能と記録や保全（C機能）<sup>51-21)</sup>

## 6. 社会・地域・生活の世界

### 6.1 社会・経済

- ・経済の三つのワナ：①人口（経済が豊かになると人口が増え，1人当りの所得が減って社会が貧困化する。逆に豊かになりすぎると少子高齢化になる。），②資源（近代工業社会では，経済が拡大すると資源価格が高騰し，交易条件が悪化して不況に陥る。省資源と生活様式の見直しが急務。），③国際通貨（基軸通貨国は自国通貨を印刷し繁栄を享受する権利があるが，貨幣が増えすぎると通貨の下落に見舞われる）<sup>51-22)</sup>
- ・景気動向指標：①先行指標（景気の動きに先駆けて動く，マネーサプライ，株価などの指標），②一致指標（景気の動きと同じタイミングで動く指標），③遅行指標（景気の動きを後追いついて動く，家計消費支出，法人税収入，完全失業率などの指標）。
- ・景気予測の三定理：コンセンサス（平均値）予想は良い予想である。景気上昇期には強気派の，景気下降期には弱気派の見通しが当たる。専門家でも景気転換点の認識はかなり遅れる<sup>51-23)</sup>
- ・社会を分析：社会構造，政治形態及び文化の三つに分解できる。社会構造は，経済，技術，職業体系からなっている。政治形態は権力の分配を規制

し、個人と集団の相対立する主張と要求を仲裁する。文化は表現的シンボリズムと意味の領域である<sup>41)</sup>

- ・人間にとっての三大悪：病気，貧困，戦争。
- ・四国の三こう：健康，観光，信仰。
- ・寛政の三博士：柴野栗山，古賀精里，尾藤二洲。
- ・伊予の三湯：鈍川（今治），道後（松山），本谷（西条）<sup>52-7)</sup>

## 6.2 地域活性化

- ・分散型定住社会のための地域政策： ①地方発の企業を生かす（特に公益的活動），②テレワークの普及（大都市の優位性の低下に），③首都機能の移転<sup>51-24)</sup>
- ・自治体が取るべき IT 政策： ①収入の増加につながる IT 事業。②住民にとって物凄く便利になるもの。③職員・経費の削減効果が明らかなもの<sup>42)</sup>
- ・「中心街をリビングルームに」をキャッチコピーにして，中心市街地への車の乗り入れを規制し，自転車の街づくりに成功した「Groningen（フローニンゲン）の奇跡」（オランダ）があります。その成功要因は「理念，一貫性，持続性」の三つ。これは，他の町おこしにも共通するポイント<sup>52-8)</sup>

## 6.3 生活

- ・生活に関する三種の神器の推移：
  - ①1955年頃：電気冷蔵庫，電気洗濯機，テレビ
  - ②1965年頃：Car, Cooler, ColorTV
  - ③1985年頃：ビデオ，パソコン，CDプレーヤー
  - ④1995年頃：Computer, Cottage, Costume
  - ⑤2003年頃：薄型テレビ，DVDプレーヤー，デジカメ付携帯電話
  - ⑥2010年頃（冬のオフィス）：湯たんぽ，ひざ掛け，加湿器
- ・謝礼のエチケットポイント：お礼をするならば素早く。ただし贈るものは

大きさにしない。渡す時はさりげなく。

- ・新築マンション購入三つのポイント：自分と同程度の所得層が多く住む地域を選ぶ（ライフスタイルに合った生活が可能）。「地域で一番」の要素がある物件を選ぶ（中古市場でも一定の需要が見込める）。タワー型は30階以上の建物を選ぶ（展望や立地など自分の力では変えられないところを買う）<sup>53-12)</sup>。

#### 6.4 失敗への対処法

- ・失敗直後にやってはいけないこと：反省する，自分を責める，失敗を失敗として認めない。
- ・失敗後取るべき行動：失敗したことを忘れる，いま何が出来るかを考える，すぐに行動に移す。
- ・反省のための省察：事実を把握する，進行の脈絡を考える，理由を考える<sup>51-25)</sup>。
- ・詐欺の被害者の常なる言葉：そういえばおかしいと思った，私が被害者になるとは，あんな良い人なのに。

### 7. 健康・医療・スポーツ・エンターテインメントの世界

#### 7.1 健康

- ・元気で長生きの共通項：明るくてよく笑う。「ありがとう」といって感謝の気持ちを伝える。過去に屈託がなく，未来に夢を持っている。
- ・元気な超高齢者を支えるホルモン：インスリン量が低い。DHEA（男性ホルモンの一種）が高い。アディポネクチンが非常に高い。
- ・新奇性とスリルを強く求めるT型人格が多くもつ興奮性伝達物質：ドーパミン，セロトニン，ノルアドレナリン<sup>51-26)</sup>。
- ・Looの法則：酷使された器官は破壊する。適度に使用された器官は発達する。使用されない器官は縮退する。

## 7.2 医療

- ・ 中国未病療法：心の養生，食の養生，性の養生<sup>53-13)</sup>
- ・ 感染症：エイズ，マラリア，結核。
- ・ 高齢者の疾患：胃炎，高血圧，痔疾。
- ・ 余命いくばくも無い患者への心得：（痛みを）とめる，（いいところを）ほめる，（からだを）さする<sup>51-27)</sup>
- ・ 信頼関係構築や問題解決を図る心理療法である「傾聴」に大切なこと：受容（正確に聞く），共感（気持ちを理解する），真実（本気で聞く）。
- ・ 高齢者，介護を巡る誤解：
  - ① 要介護発生率の実態（介護は終末が近づけば殆どの人が避けて通れない問題），
  - ② 加齢効果と世代効果の混同（年を重ねることによる変化より，その世代が育ってきた社会環境の影響の方が明らかに大きい），
  - ③ 元気な高齢者の表現（生物学的な年齢だけでなく心理年齢や歴史年齢などの多様性に注目すべき）<sup>51-28)</sup>
- ・ 癌の三次予防：再発の予防（癌で死なない），延命治療（すぐには死なない），緩和治療（苦しんで死なない）<sup>51-29)</sup>
- ・ 補完代替医療の問題点：患者と医師との対話不足。エビデンス（科学的根拠）が少なく，患者が欲しい情報がない。利用目的のずれ。

## 7.3 スポーツ・エンターテインメント

- ・ 三人組の歌手には，洋の東西を問わず声・顔・調子(リズム)が求められる。
- ・ 野球は「三」尽くし：三振，三冠王，クリーンアップトリオ，など。
- ・ ラグビー：接近，展開，連続（体格で日本人より上回る外国チームと戦うため，大西鉄之祐が編み出した理論）。

## 8. 同じアルファベットの三組

- 3 A：職場ストレス [Accident (事故), Alcohol (アルコール依存症), Absenteeism (常習的欠勤)]
- 3 B：世界最大級食品ブランドのフォションによる 2007 年度戦略 [Beau (見た目の美しさ), Bon (食べておいしい), Bien (食べ手への配慮)]
- 3 C：1) 高齢者の満足を高める視点 [Convenience (便利), Customization (個人仕様), Communication (意思疎通)]  
2) 2000 年前後の女性の結婚条件 [Comfortable (十分な給料), Communicative (理解しあえる), Corporative (家事に協力的)]
- 3 D：労働基本権のうちの主要三権 [団結権, 団体交渉権, 団体行動権 (争議権)]
- 3 E：税金使用の適正監査 [Economy (経済性), Efficiency (効率性), Effectiveness (有効性)]<sup>52-9)</sup>
- 3 F：団塊男性の消費を喚起するトリガ [Fun (楽しみ), Family (家族), Future (未来)]<sup>53-14)</sup>
- 3 G：1) 21 世紀に向けての企業戦略 [グロース, グローバル化, グループ力]  
2) 大手流通業のあり方 (大丸：山本良一社長) [現場, 現品, 現状分析]  
3) 企画のためのアドバイス [愚痴らない, 愚弄しない, ぐずぐずしない]
- 3 I：1) ビジネス世界で溢れているもの (Warren Edward Buffett) [Innovators (革新者), Imitators (模倣者), Idiots (愚か者)]  
2) ベンチャー企業の育成条件 [Institute (ベンチャー企業の社長や役員を兼ねる大学教授が多い), Incubator (研究開発型企業しか入居できない。スタッフや商品化・経営指導を無料で受けられる), Information (人脈)]<sup>51-30)</sup>
- 3 J：1994 年の現象 [J リーグ, ジュラシックパーク, ジュリアナ東京]
- 3 K (一般)：

- 1) 1970年代の財政を悪化させた赤字根源 [国鉄, 健保, コメ]
  - 2) バブル全盛期, 若者が就職したくない職場 [きつい, 汚い, 危険]
  - 3) バブル後, 企業の経費削減項目 [交通費 (出張費), 交際費, 広告宣伝費]
  - 4) 21世紀の日本の印象 [きれい, かわいい, 気持ち良い]
  - 5) 2010年頃の女性が結婚相手に求めているもの [価値観の一致, 金銭感覚の一致, 雇用形態の安定]
  - 6) 2010年前後, 若者の関心が薄い商品 [車, 家電, 海外]
  - 7) 第二の人生を充実させる条件 [経済, 家庭, 健康]
- 3 K (高):
- 1) バブル全盛期の女性が結婚相手に求めるもの [高身長, 高学歴, 高収入]
  - 2) 21世紀後発開発途上国の現象 [高出生率, 高死亡率, 高人口増加率]
  - 3) 日本人の健康を脅かす病気 [高血圧, 高脂血症, 高尿酸血症]
- 3 L: 1980年後半の技術開発の中心 [LSI, Life Science, Laser]
- 3 M: 1) 政治の世界 [Money (お金), Majority (過半数), Machiavellism (権謀術策)]
- 2) 三無主義 (1970年頃から使われだした若者気質) [無気力, 無関心, 無感動]
  - 3) 第二の人生を充実させる条件 [Medical (医療), Mind (精神), Money (資金)]
  - 4) 秋山好古の処世訓 [無欠勤, 無借金, 無不平]<sup>52-10)</sup>
  - 5) 孫文の三民主義 [民族主義, 民権主義, 民生主義]
- 3 P: しっかり者政治家の心得 [Plan (計画), Policy (政策), Philosophy (哲学)]
- 3 R: 1) 再生可能な環境問題 [Reduce, Reuse, Recycle]
- 2) F. Roosevelt の New Deal 政策 [Relief (救済), Recover (回復), Reform

(変革)]

3) 2010年前後の世相 [Repair (修理), Reuse (再利用), Rental (貸借)]

3 S : 米国 1980年代の出版業界での話題 [Sports, Senior, Science]

3 T : 1) 2010年前後, 女性が結婚相手に求めるもの [低姿勢 (女性に威張らず), 低依存 (家事は自分でこなす), 低リスク (安定して職業や資格を持つ)]

2) 新卒採用基準 [Technology (技術), Talent (人材), Tolerance (許容度)]<sup>51-31)</sup>

3 V : 1) サラリーマンの心得 [Vitality, Vision, Venture]

2) 海外生活への期待 [Visit (訪問), Villa (別荘), Visa (査証)]

3 Y : 燃え尽き症候群防止策 [役割, 友人, 余暇]

なお, 3 H · 3 N · 3 O · 3 Q · 3 U · 3 W · 3 X · 3 Z に該当するものは見出せませんでした。

## 9. む す び

『三探し』という言葉があります。私には四人の男兄弟がいますが、私以外は極めて複雑な読み名が付けられているのに、私だけが単純に「三郎」なのです。このため、最初は「三郎」のルーツを探ろうと資料を当たり始めました。そして、「三郎」は観世流の観阿弥や世阿弥などの流祖も名乗った大変由緒ある名前であることが判明して納得しましたが、その内私の興味は完全に『三探し』に入ってしまった。

ところで、『三大云々』という比較の資料は昔より数多く報告されています。例えば、名所、グルメ、イベント、人物などは文献43)で、動物、植物、鉱物などについては文献44)をご覧ください。Webには世界三大ガツカリ、国内三大ガツカリというのもあります。

さらに、日経ビジネスでは、かつて『政策道場』として、主に多くの政治家に「三つのポイント」を発表してもらっていたことも挙げておきましょう。

本稿では、手持ちの数ある資料中、字数の関係で興味あるもののみを選択しましたので、ちょっと公平さに欠けることになったかも知れませんが、ご容赦ください。また、『三』以外の数については、殆ど触れなかったのですが、『四』は完全無欠、『八』も日本古代では「聖なる数」と見なされていた、など色々興味ある話が多々ありますので、これらについてのまとめは別の機会に譲りたいと思います。

### 参 考 文 献

- 1) 柳川昌弘：般若心経の暗号，ベストセラーズ，1990
- 2) <http://www.dnet.gr.jp/~ando/kikou12.htm>
- 3) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E7%8C%BF> (三猿)
- 4) ゑれきてる編集部：数える文化・数える科学，ゑれきてる，pp.17-20，1983 SUMMER
- 5) 芳沢光雄：「三」の発想－数学教育に欠けているもの－，新潮選書，2009
- 6) 仲田紀夫：思わず教えたい数学66の神秘，黎明書房，2005
- 7) Walter Kiechel III，藤井清美訳：経営戦略の巨人たち－企業経営を革新した知の攻防，日経新聞出版社，2010
- 8) J. Sheth & R. Sisodia，橋本恵訳：三の法則，講談社，2002
- 9) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%89%E5%AE%9D>
- 10) <http://hdc.hamazo.tv/e1695579.html>
- 11) 五木寛之：親鸞（上），講談社，2009
- 12) 森本哲郎：南部恐山，SIGNATURE，pp.26-30，1999. 9
- 13) <http://www.geocities.jp/nkkagosu300/page090.htm>
- 14) 松村明監修：デジタル大辞典，小学館
- 15) <http://www.cityfujisawa.ne.jp/~himeno/kouen.html>
- 16) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%AE%97%E5%91%BD%E5%AD%A6>
- 17) [http://3meigaku.com/modules/pico/index.php?content\\_id=17](http://3meigaku.com/modules/pico/index.php?content_id=17)
- 18) 別冊宝島103：気は挑戦する，JICC，p.47，1989
- 19) <http://www8.plala.or.jp/konjouin/oshie.html>
- 20) 佐保田鶴治：ヨーガ根本教典，平河出版社，1973
- 21) <http://www.geocities.jp/herbforum/Hayurveda/hayur.htm>
- 22) E. Maor，伊理由美訳：不思議な数eの物語，岩波書店，1999
- 23) Miranda Lundy，桃山まや訳：数の不思議，創元社，2010
- 24) Lee O Young：ジャンケン文明論，新潮新書，2005
- 25) R. Slater，仁平和夫訳：ウェルチーリーダーシップ31の秘訣，日本経済新聞社，2001

- 26) 田崎三郎：デジタルエコノミーと情報倫理，電子情報通信学会，Fundamentals Review, 3, 3, pp.31-43, 2010.01
- 27) Thomas L. Friedman, 伏見威蕃訳：フラット化する世界，日本経済新聞社，2006
- 28) 末弘巖太郎：役人学三則，改造，1931.08
- 29) <http://www-06.ibm.com/ibm/jp/about/values/>
- 30) Pat Moore, 木村治美訳：私は三年間老人だった，朝日出版社，2005
- 31) 原 正恒：さらなる低価格志向に思う，IRC, p. 1, 2009. 4
- 32) 広辞苑，p.1120, 1998
- 33) <http://gogen-allguide.com/si/syouchikubai.html>
- 34) James Allen, 船井幸雄解説：BUSINESS EHIME, p.64, 2002.11
- 35) 森本哲郎：生き方の研究⑤—三つの人生行路について「与謝蕪村」，SIGNATURE, pp.120-124, 1985.11
- 36) リヒテルズ直子：オランダの個別教育はなぜ成功したのか—イエナプラン教育に学ぶ，平凡社，2006
- 37) L. A. オーランド：いい上司になる方法，ロータリーの友，pp. 7-10, 1989. 8
- 38) 童門冬二：上杉鷹山の経営学，PHP 文庫，p.129, 2002
- 39) 船井幸雄：事業はリーダーで決まる，BUSINESS EHIME, p.58, 2001.1
- 40) 福田稔：かもになる日本人，朝日新聞，1992. 4. 5
- 41) Daniel Bell, 内田忠夫等訳：脱工業社会の到来，ダイヤモンド社，1975 (Basic books1973)
- 42) 木下敏之（前佐賀市長）：日本を二流 IT 国家にしないための十四カ条—佐賀市「電子自治体」改革一年の取り組みから，日経 BP 出版センター
- 43) <http://www.geocities.co.jp/SilkRoad/9448/earth/three.html>
- 44) <http://www.nurs.or.jp/~u1/6.html>

(日経新聞：51)

- 1) 07. 5. 5, 2) 06. 2.18, 3) 07. 6.10, 4) 04. 6. 9, 5) 01. 8.17,
- 6) 06.11.11, 7) 09. 3.27, 8) 08. 2. 8, 9) 00. 5.24, 10) 10. 3. 4,
- 11) 01.12.28, 12) 11. 6.22, 13) 09. 1.14, 14) 08. 1. 1, 15) 92. 1.19,
- 16) 07. 1. 5, 17) 01. 8.18, 18) 09. 2.27, 19) 11. 6.22, 20) 08. 5.30,
- 21) 03. 4.21, 22) 09. 6.13, 23) 10.10.15, 24) 98.12.10, 25) 09. 4.11,
- 26) 01.11. 4, 27) 02. 8.25, 28) 99.11. 9, 29) 06. 8.20, 30) 98. 1. 6,
- 31) 04. 3.17

(愛媛新聞：52)

- 1) 11.02.09, 2) 09. 3. 4, 3) 06.12.20, 4) 10. 7. 9, 5) 08.12.30,
- 6) 04. 6.16, 7) 08. 4. 1, 8) 11. 7. 7, 9) 10. 4.14, 10) 08. 9. 2

(日経ビジネス：53)

- 1) 96. 2.16 (p.88), 2) 08. 5.12 (p.36), 3) 06.12.18 (p.56),
- 4) 07. 3.19 (p.1), 5) 09. 3.16 (p.1), 6) 05. 7. 4 (p.1),
- 7) 05. 7. 4 (p.121), 8) 10. 2.15 (p.104), 9) 10. 3.22 (p.84),
- 10) 10. 3.22 (p.36), 11) 06.11. 6 (p.13), 12) 03. 6. 9 (p.39),
- 13) 01.12.10 (p.65), 14) 06.10.30 (p.58)